

新濃尾(二期)農地防災事業

新木津用水路小牧東田中工区 (その2)改修工事

本地区は、名古屋市北東部の小牧市に位置し、周囲は住宅地に面しています。

本工事は、施工延長約270mのブロック積護岸工と現場打ちの底版コンクリート、橋梁工1基、伏越工1箇所、暫定取付工1箇所、階段工2箇所を、R3年度からR5年度にかけて施工する国債工事です。

また、本工事は、河川(薬師川)との共用区間での施工のため、工区の上流側で仮締切し、常時排水は水中ポンプで他の河川に強制排水し、出水時は現場内を流下させる計画として水路を改修しています。

このため、ある程度の雨が降ると河川が増水し、水中ポンプの能力を超えて仮締切を越流し、現場が水没することも何度かありました。また、当現場周辺で雨が降らなくても、上流区域にまとまった雨が降ると河川が増水し、越流しそうになったことも何度かあり、常に天気予報を考慮して作業を進めてきました。

工事現場は、住宅地に近接しており、生活道路を工事用道路として使用しているため、工事に伴う振動・騒音・粉塵や工事用車両の通行に対して細心の注意を払うと共に、近隣住民とのコミュニケーションを大切にし、ご理解いただける様に積極的に努めてきました。

本工事は令和4年2月末時点で、R4年5月までの第1工区(水路延長183m)分の水路工事が7割ほど完了し、通水再開に向け、現在、奮闘努力しています。今後も、安全と第三者優先を第一に、無事故・無災害で竣工できるように、一生懸命頑張っていきます。



監督職員からのエール

本工事は、新濃尾農地防災事業の新木津用水路のうち、一級河川薬師川との共用区間における河川改修事業との共同工事として実施するものです。本工事は河川内工事であるため、河川協議上、高水位までの河川内工事期間が11月から翌年3月に制限されており、ブロック積水路だけでなく、橋梁の架け替えや伏せ越し工等もあり、工程管理の難しい現場となっています。

また、住宅地が非常に近く、近隣住民の生活道路となっている堤防道路を掘削して工事を行うため、近隣住民への細やかな配慮や丁寧な説明が不可欠な現場でもあります。

このような状況の中、監理技術者兼現場代理人の中村所長は、監督職員との連絡を密に取りながら、現場内や近隣住民への対応に奔走されており、難しい局面であっても前向きに対処されている姿は頼もしい限りです。本工事は、令和5年5月までの国債工事であるため、あと1年ほどありますが、無事故無災害で工事完了の日が迎えらるよう最後までよろしくお祈りします。

監督職員

(写真右) 前東海農政局新濃尾農地防災事業所

企画官 星 葉子

(4月1日より土地改良技術事務所専門技術指導官)

現場代理人

(写真左) 株式会社熊谷組

小牧東田中作業所 中村 竜哉

